

■効果の見える治水事業

徳島県 正木ダム堰堤改良事業

徳島県県土整備部 東部県土整備局

局長 おきつ やすよし
 奥津 康賀



正木ダムは、昭和52年に完成し33年を経過しております。ダム建設時に建てられた管理所は、現在の耐震基準を満足しておらず、また、ダム放流操作時に必要な情報処理装置(ダムコン)や放流警報設備(テレメータ)は、更新後20年ほど経過し、故障時の部品調達に対応等が困難となっていました。



正木ダム

正木ダムの概要

- ①目的 洪水調節、河川環境の保全、かんがい工業用水、発電
- ②河川名 2級河川 勝浦川水系 勝浦川
- ③諸元 重力式コンクリートダム
 堤高:67.0m 堤体積:248,800m³
 総貯水容量:15,050 千m³
 集水面積:94.7km²

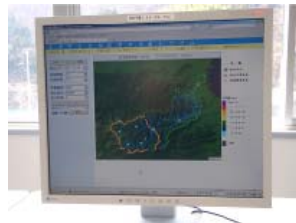
事業の概要・効果

近い将来に起こるとされる南海地震への備え、洪水調節時に必要なダム放流操作の信頼性向上のために、平成22年度にダム管理所の耐震補強と情報操作処理装置(ダムコン)の改良を行い、併せて、放流操作の支援となる河川流出予測システムを導入しました。

今後も老朽化したダム諸設備の改良を進め、ダム管理の適正化及び効率化を図っていきたくと考えております。



情報操作処理装置(ダムコン)



流出予測システム

事業概要

事業費 全体 890百万円(平成22年度迄 390百万円)
 事業期間 平成20年度～平成25年度
 事業概要 ダム情報処理設備改良(管理所耐震補強含)
 テレメータ・放流警報設備改良
 主ゲート放流設備改良

「持続可能な地域社会づくり」

上勝町長 かきまつ かずいち
 笠松 和市



上勝町は四国山脈の南東部、徳島県庁から南西方向に約40km(車で約50分)のところに位置し、美しい連山の間には東流する勝浦川があり、総面積109.68km²、内88.5%が山林で、その内の83.5%が杉を主体とした人工林と、わずかの1.2%の土地には急峻な田畑樹園地、また、標高100～700mの間に55の集落が点在しています。

町の産業は、かつては木材、温州ミカンが主な産物でしたが、輸入自由化などにより採算が合わなくなり、さらにS52に正木ダム完成、河川改修や県道改良の事業推進、公共施設の建築など公共事業を中心とした産業に変わっていきました。その中で、S56年2月にはマイナス13度という局地的な異常寒波で主産物のミカンがほとんど枯死し、本町特産の香酸柑橘である「ゆこう」「すだち」も枯死寸前となり農業は大打撃を受けました。

しかし、これを契機として、農家はもちろん、農協、町、普及所等が軽量野菜を中心に農業再編成に取り組む中で、S61年には現在ヒット商品となっているいろどり農業が生まれ販売開始、H3年からH7年に5つの第3セクターを設立し、就業の場も多くなりました。H13年ゴミ35分別開始。H15年に焼却・埋め立てによるゴミの処理を限りなくゼロに近づける「ゴミゼロ(ゼロ・ウェイスト)」を日本で初めて宣言。H17年「日本で最も美しい村」連合設立に参画し、すばらしい地域資源を持った過疎の町が「日本で最も美しい村」を宣言することで、自らの地域の誇りを持ち将来にわたって美しい地域づくりを行うなどにより地域の活性化を図りながら、観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展を推進しています。H18年木質チップボイラー導入。H22年2月には重要文化的景観「椋原の棚田」に選定等による景観づくり、また、明るい夢のある「いろどりの里」の実現に向け知識と知恵を使っている若い世代が定住できる自ら考え自ら行う地域づくり『いっきゅう運動会』を展開し町づくり、人づくりに取り組んでいる過疎と高齢社会の町です。



子どもの頃から分別の意識付け



「日本で最も美しい村」連合」のロゴマーク



平成23年2月に完成した斬新的なデザインの田野々住宅